

コロナ禍でできること	(2) 小学校との連携・交流
公立保育所	野呂保育所
<実施時期>	通年
<幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分>	
「協調性」「思考力の芽生え」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝えあい」	
<活動のきっかけ>	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、年長児が小学校と交流をしていたが、コロナ禍で控えることになってしまった。 ・昨年度の修了児に対して、懐かしさと会いたいという思いがあり、毎月の保育所だよりと共に手紙にして届ける。 ・小学校1年生から返事の手紙が届き、小学校が楽しい様子を教えてもらった。 ・小学校へ手紙を届けに行く道で「てすとはむずかしいのかな?」「りかのじっけんはたのしいっておにいちゃんからきいたよ。」など学校に関する知識や疑問があげられた。 	
<活動のねらい>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校生活への関心が高まり、就学に期待を持つ。 	
<経験する内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の疑問などを手紙にして、毎月の保育所だよりと共に届ける。 ・校舎内は見学できないが、施設を外から見たり、校庭見学をさせてもらう。 	
<新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫>	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが書いた手紙は、コロナ禍で小学生と交流が持てなかったことから、校舎の中に「保育所からの手紙コーナー」を作って掲示してくれた。 ・子どもたちの疑問は、校長先生や教頭先生が直接子どもたちに答えてくれることもあった。 ・小学校からのおたよりを保護者が送迎時に見ることができるようにする。 	
<活動の内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内のことで子どもが興味関心を持ったことに対し、保育者が校舎の写真を撮り、「小学校マップ」を作成した。また、どんな教室なのか簡潔な言葉で表記し子どもがわかりやすいように掲示をした。 ・会うことが難しい昨年度の修了児に対して、思っていること伝えたいことを手紙に書いた。 	

<活動でみられた子どもの姿>	<環境構成・教材や保育者の援助等>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲の良かった昨年度の修了児に会いたいという声が聞かれる。 ・ 後日、小学1年生から返事の手紙をもらう。「給食がおいしいよ。」「授業がおもしろいよ。」などがイラスト付きで書かれていて、友だちと一緒に目を輝かせながら読んでいた。 ・ 1年生から返事をもらった嬉しさを保育者や友だちと共感する中で、「じゅぎょうってどんなことなの?」「きゅうしょくはどんなものがでなの?」という新たな疑問がうまれる。 ・ 手紙の他にも小学校がどんな場所なのか知る方法を話し合う。「おにいちゃんにきいてみる。」「せんせいがかわりにがっこうたんけんしてくる?」「そとから、がっこうたんけんはどう?」などの案から校庭から見学をする計画をたてる。 ・ 業間休みの時間に校庭の様子を見ていた。休み時間終了のチャイムが鳴ると小学生が駆け足で入室する様子に驚く。「せんせいにいわれなくてもじぶんたちではいるんだね。」「すごいね。」「べんきょうがあるからだよ。」などチャイムを聞くことの大切さを感じていた。 ・ 保育者の作った小学校マップを見ながら、保育所にはない物などを友だちと想像したり、使い方を話すなど会話を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲の良かった友だちに会いたいという思いに寄り添い、一緒に手紙を書く。 ・ 子どもによっては、ひらがなが書けない子もいるので、あいうえお表やひらがなスタンプを置いておく。 ・ 校舎を外から見学させてもらう機会を設ける。給食の献立に関心を持った子もいたことから、給食室も外から見学をする。カレーの匂いなど慣れ親しんだ匂いがすることで、保育所と共通点を感じ小学校に親しみが持てるよな言葉がけをする。 ・ 小学校内をより詳細に知ることができるように、後日教室、保健室、音楽室、トイレ、廊下などの写真を撮らせてもらい、保育者が「小学校マップ」を作り子どもたちの見える場所に掲示をする。
<成果と今後の課題>	
<p>仲の良い友だちをきっかけに、手紙交換から始まり、小学校に対して興味関心を育むことができた。コロナ禍で以前のように小学生と交流したり、学校探検は難しいものの、新たな手立てを模索しながら就学への期待が持てるようにしたい。</p>	
<カリキュラムコーディネーターのコメント>	
<p>年長児と小学校との交流を「コロナ禍」によってで控えざるを得ない状況の下、修了生への手紙を書いて届ける活動が、子ども達が小学校についての知識を深め、興味関心や期待を高めることに繋がりました。毎月の保育所だよりを届けるという、保育所と小学校との連携の下地があることが重要であると改めて感じました。小学生からの手紙の返事をもらって小学校への興味関心を高めた後に、小学校を見学したことで、子どもの小学校に対する気づきもより具体的なものになっていました。コロナ禍による制限はあっても、小学校との交流にはさまざまな工夫が可能であることを感じました。</p>	